



# さくら 2011 春

発行  
社会福祉法人 東桜会  
第 31 号  
〒420-0962  
静岡県葵区東 527 番地の 1  
特別養護老人ホーム 麻機園  
TEL 054(247)8739  
FAX 054(247)8640

## 災害への備え

麻機園園長 秋山 通

平成 23 年度は、3 月 11 日に発生した東日本大震災の報道で幕が明けました。地震が発生してから既に 3 週間が経過しているにも拘わらず、原子力発電所の事故の影響により、未だに亡くなった方や行方不明の方の捜索も手つかずの地域もあるようです。文明の進んだこの時代に、地震によって破壊された不便な環境に加え、計画停電や目に見えない放射能の恐怖など、二重三重のご苦労をされている大勢の方々に何らかの形で少しでも協力をしたいと考えます。

過去の震災時の例では、1989 年の伊豆東方沖噴火（伊東の沖合いにある手石海丘の海底噴火）の際には、伊豆半島所在の老人ホームの入所者の避難受け入れの準備をしたり（実際に避難は行わなかった）阪神・淡路大震災の際には神戸市内の特別養護老人ホームに麻機園から介護職員を 1 週間ほど応援派遣したことなどもあります。

大変便利な生活環境の中で、様々な設備や介護用機器などがあることがあたりまえとなっている時代に、今度のような震災時には、停電やガス・水道が止まることなどによって殆どの設備が全く使えなくなってしまいます。想像を超える不便な日常になることが今度の震災でよく分かりました。このような時にどのようにしてお年寄りの介護を続けていくのか、在宅のお年寄りの介護はどうしたらよいのでしょうか。

今回の大震災では様々なことで過去の経験では対処できない事態になっていることが報道されています。東海大地震の想定地域となっているこの地域では、地震対応を含んだ消防計画や風水害対策マニュアル、感染症発生時の事業継続計画なども準備していますが、何れも自施設以外は平常状態を想定したもので、近隣への避難や援助が受けられることを前提としたものです。これからはもっと広範囲での災害に対する対応を考慮したマニュアルや計画の見直し、策定が必要になるものと思われませんが、一施設だけで対応できるものとも思えません。

「想定外の…」という発言や活字をよく耳にしたり目にしていますが、当地ではそのようなことにならないようお願いいたします。

## 新人職員紹介

平成 23 年 4 月に 5 名の方が東桜会の職員の仲間入りをしました。  
そのうち 4 名の職員を紹介させていただきます。

### 麻機園 機能訓練指導員 福島綾子

この度、機能訓練指導員としてお世話になることになりました。これまでは言語聴覚士として、言語リハビリや飲み込みのリハビリ、お口の体操や頭の体操をやらせて頂いて来ました。皆さんと楽しい時間を過ごしていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。



### 麻機園 寮母 塚本泰地

私は静岡福祉大学の福祉心理学科で勉強をしていたのですが、20 歳にして奥さんと子供ができたので、心機一転働く事になりました。早く皆様の一員になれるよう精進したいと思います。よろしくお願いいたします。



## 麻機園 寮母 小林麻衣

私は静岡福祉医療専門学校で3年間勉強をし、麻機園に就職しました。分からない事だらけですが、一日も早く皆さんに信頼して頂ける職員になれるよう頑張ります。よろしくお願いします。



## 麻機園 看護師 明石さと子

以前仕事で麻機園の周辺を通ることがよくありました。周囲に素敵な花々や可愛い御地蔵様があり、自然と一体化されて、通る度に心がホッとしていました。今もその風景は変わっていません。御縁があって4月1日より麻機園で働かせていただく事になりました。どうぞよろしくお願いします。



# 100才おめでとうございます

1月15日、池田つねさんの100歳のお祝い会を行った。司会の職員が「お誕生日」と言うと、次の瞬間「おめでとう」と入所者達の大きな声が食堂に響きわたった。音楽と共に池田つねさんが入場。家族が用意してくれたピンクのお祝い用の服とピンクの帽子をかぶり、緊張しているのか顔が少しこわばっているようにも見えたが、みんなの前に出ると、緊張が解けたようだった。



お祝いの言葉の後、プレゼントの花束とケーキ、そして職員が寄せ書きしたつねさんの似顔絵入りの色紙をお渡しし、スライドを使ってつねさんの生い立ちを紹介した。つねさんは明治44年生まれ。農家に嫁ぎ、春は田植え、秋には稲刈り、冬にはみかんの収穫と忙しい日々を送ったそうだ。また、旅行が好きで、色々な所へ出掛け、そのスライドは楽しそうな笑顔ばかり。それらのスライドをつねさんは懐かしそうに見ていました。

『ハッピーバースデー』を全員で歌い、大きなケーキの上で揺れているローソクの火をつねさんと職員で消すと、大きな拍手が鳴り響いた。職員によって分けられたケーキをみんなで和やかに食べました。

職員と一緒に入所者の皆さんも心の底から祝ってくれ、つねさんは言葉数こそ少なかったが、表情からとても喜んでいる様子がうかがえました。おめでとうございます。



## 麻機園 寮母 加茂川清隆

「ありがとう」

江井健太

私がこの仕事をやりたいと思ったのは、中学2年の時に行った校外学習の授業で老人ホームに行ったことがきっかけです。それまでは老人ホームの仕事がどういふものか、全然分かりませんでした。食事の介助、入浴の介助、レクリエーション等を見学させてもらい、一番びっくりしたことは排泄介助でした。まともに見ることができず、外で待っているだけでした。しかし、お年寄りの方達と触れ合っている中で、楽しさを感じました。まだ将来自分がどんな仕事をするか考えもありませんでしたが、介護をやってみたいという気持ちが湧きました。

高校3年の進路に迷っている時、親から自分の進みたい道に進めばいいと言われ、介護の仕事をしよと福祉大学に進学しました。大学で介護のこと、福祉のこと、その他色々なことを勉強し、そして今自分のいる特別養護老人ホーム麻機園に就職することができました。

社会に出て仕事をするということは生半可なことではありませんでした。学生の頃のアルバイトとは違い、仕事に対する責任が何十倍もあります。不安で、やっているのか悩むこともありましたが、しかしある言葉で弱気な自分を励ますことができました。それはお年寄りの方から言われた「ありがとう」という言葉でした。この言葉を聞いて、こんなまだまだ新米の自分でも役に立っている、これからも色々なことでもっともつと役に立ちたいと思いました。そして「ありがとう」という言葉をもらう以上に、みんなを笑顔にしていきたいことができたらいなと思います。

この仕事は世間からは「大変」、「きつい」と言われていますが、自分の気持ち次第だと思います。どんなに大変でも自分が笑顔で頑張れば、それは楽しいことに変わっていく気がします。これからも笑顔を絶やさず、全力で頑張っていきたいです。

デイサービスを無料で1日体験できます。ご利用希望の方は209-2619までお電話ください。